

## 旅客船の安全対策の充実について（とりまとめ）

海事局

本年1月に発生した大型客船「コスタ・コンコルディア号」の座礁事故を受け、同5月に開催されたIMO（国際海事機関）の海上安全委員会において旅客船の安全対策について議論が行われた結果、同6月1日、IMOより、現状の安全対策の検証と見直しを勧告する回章が発出された。

海事局においては、同回章による勧告の趣旨を踏まえ、同7月13日付けで、関係業界団体に対し、現状の対策の検証と見直しを実施し、緊急時の旅客避難等に関する安全対策を充実することを推奨したところであるが、関係事業者における検討結果を踏まえ、関係団体から受けた報告を下に、今後の各社の安全対策の充実内容について、別紙のとおり、とりまとめた。

### 概要

- 1 IMO回章に沿って、外航クルーズ客船においては、全事業者において救命胴衣の追加搭載を行うための諸手続が進められている他、出港前の避難訓練の実施に向け、積極的に取り組んでいる。
- 2 内航・外航問わず、今回の要請を受け、非常用掲示物及び船内放送の多言語化（日本語・英語・中国語・ハングル）や避難誘導DVDの放映等、避難要領のさらなる周知のための取り組みが多くの船社で行われつつある。
- 3 さらに、内航旅客船においても、一部の船社において、旅客に対する船員の操練への参加要請や、船内見学会の見学行程を活用しての救命胴衣の着用、避難ルートの確認、救命設備の説明等の取り組みが検討されている。
- 4 関係団体においても、各事業者の安全対策の充実を支援する取り組みが行われている。

1 救命胴衣の追加搭載

【対象事業者】外航クルーズ客船

【具体的取組内容】

- 最大搭載人員の5%分に相当する救命胴衣を追加搭載の上、本年9月20日に臨時検査を受け、条約証書の書換え及び救命設備配置図の変更を実施済。  
(商船三井客船)
- 最大搭載人員の5%分に相当する救命胴衣を追加搭載の上、本年10月に、条約証書の書換え及び臨時検査の申請を予定。  
(日本チャータークルーズ)
- 従来より予備として任意で追加搭載している最大搭載人員の5%分に相当する救命胴衣について、本年10月を目途に設置場所の調整を行い、必要な書類等の書換えを行う予定。  
(郵船クルーズ)
- 平成24年12月のドック時を目途に、最大搭載人員の5%分に相当する救命胴衣を避難集合場所へ追加搭載予定。  
(日本クルーズ客船)

## 2 避難要領のさらなる周知

【対象事業者】旅客船全般

【具体的取組内容】

- ① 非常用掲示物及び船内放送の多言語化（日本語・英語・中国語・ハングル）。
- ② 船内で避難誘導DVDの放映。
- ③ 客室のTVモニターを避難誘導DVD放映チャンネルにセット。  
（四国開発フェリー）
- ④ シアター等において、映画上映前に、避難誘導DVDの放映を開始。  
（商船三井フェリー、太平洋フェリー）
- ⑤ 中国又は韓国の旅客用に、中国語・ハングルによるリーフレットを作成済。  
（商船三井客船、日本チャータークルーズ）
- ⑥ 船室キー・乗船証への集合場所記載について、フォント拡大等見やすく更新済。  
（商船三井客船、郵船クルーズ）
- ⑦ 平成24年10月中旬には、個室キーに名刺サイズのタグを取り付け、避難集合場所を明記。また、大部屋については、個室キーのタグの避難集合場所イラストを拡大し、壁に貼り付けることとする。  
（商船三井フェリー）
- ⑧ 平成24年12月を目途に、Muster Stationの表示を見やすく更新。  
（郵船クルーズ）

※ 日本外航客船協会においては、日本語・英語・中国語・ハングルの避難要領のひな形「安全のしおり」を作成し、傘下会員事業者に対して、周知を行っている。

※ 日本旅客船協会においては、避難誘導用DVDの作成に加え、中国語・ハングルの避難要領のひな形を作成し、傘下会員事業者に対し周知を図ることを検討中。

### 3 避難訓練の実施等さらなる対策の充実

【対象事業者】外航クルーズ客船

【具体的取組内容】

- 平成 24 年 8 月 20 日より、出港前の避難訓練を開始。  
(商船三井客船)
- 平成 24 年 10 月末を目途に、出港前の避難訓練を実施予定。  
(日本クルーズ客船)
- 平成 24 年 12 月下旬を目途に、出港前の避難訓練を実施予定。国内クルーズについても 2 泊以上のクルーズにて出港前訓練実施予定。  
(郵船クルーズ)
- 出港前の避難訓練の実施に向け、チャーター先の会社と打ち合わせ中。  
(日本チャータークルーズ)

【対象事業者】その他の外航旅客船（航海の時間が 24 時間以下）

【具体的取組内容】

- 修学旅行等団体旅客の添乗員から要望があった際には、本船に備置されている「安全のしおり（日本語・英語・中国語・ハングル併記）」を受付時に配布し、説明を行うことを検討中。  
(カメラライン、関釜フェリー)
- 各座席への「安全のしおり（日本語・英語・中国語・ハングル併記）」の配布徹底。  
(JR九州高速船)

【対象事業者】内航旅客船のうち「少人数定員の個室の客室を有するフェリー等の船舶」

【具体的取組内容】

- ① 毎月1回実施している船員の退船等操練実施時に、乗船中の旅客に対して操練への参加要請（従来より実施）。  
(マリックスライン)
- ② 実施可能な範囲で船内見学会を行い、船橋見学等に加えて旅客の救命胴衣の着用、避難ルートの確認、救命設備の説明、乗組員の体験談等を見学行程に組み込む（7月～8月に試験的に実施）。  
(商船三井フェリー)
- ③ 修学旅行等の団体旅客に対して、避難訓練の実施を検討。  
(新日本海フェリー)
- ④ 今後、修学旅行等の団体旅客に対しては、可能な限り乗船後速やかに救命胴衣の着用方法や避難要領の説明等を実施する。  
(太平洋フェリー、フェリーさんふらわあ、名門大洋フェリー)
- ⑤ 平成25年1月を目途に、発券時に避難経路図（日本語・英語・中国語・ハングル）を配布。  
(野母商船)
- ⑥ 個室旅客に対し、客室案内時に、救命胴衣格納場所及び避難要領が掲示されている旨口頭で説明。  
(隠岐汽船、折田汽船、マリックスライン、佐渡汽船)
- ⑦ 今後、客室等にB4版～A3版サイズの脱出経路図を掲示するとともに、船内放送時に救命設備の使用方法に加え客室内に脱出経路図が掲示されている旨案内する。  
(小笠原海運)
- ⑧ 平成24年12月を目途に、救命胴衣格納場所、集合場所の確認要請を徹底するため船内放送の内容見直し。  
(川崎近海汽船)

⑨ ターミナルの待合室に設置しているテレビで、救命胴衣の着用方法に関するビデオを放映中。

(商船三井フェリー)

⑩ 平成 24 年 12 月を目途に、外国人団体客向けのパンフレット（英語・中国語・ハングル）を作成するとともに、旅客ターミナル及び船内案内所にも備置。

(阪九フェリー)